

## 第1 令和6年度予算編成について

現在の我が国の景気は、このところ一部に足踏みもみられるものの、緩やかに回復している。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、緩やかな回復が続くことが期待されるが、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

このような経済状況の中での2024年度の県税収入は、好調な企業業績を反映した法人二税の増収を見込んでいるが、今後、懸念材料である海外景気の下振れや金融資本市場の変動等の影響に十分留意する必要がある。一方、歳出では、2025年にかけて団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となることに加え、子ども・子育て支援の強化により、医療・介護・子育てなどの扶助費が大きく増加することなどから、2024年度当初予算の編成にあたっては、依然として多額の収支不足が見込まれた。

こうした状況に対応するため、2023年度における財源確保等により、年度内の減債基金（任意積立分）及び財政調整基金の取崩しをできる限り取り止めた上で、2024年度において再び多額の基金取崩しを計上することにより、収支不足を解消したところである。

引き続き厳しい財政状況ではあるが、イノベーションを創出する好循環を生み出す日本の成長エンジンとして、将来にわたって我が国の発展を力強くリードし続けられるよう、さらに愛知を発展させていかなければならない。

そこで、以下の「14の柱」を重点に、予算編成を行った。

- ◎ With/After コロナの成長戦略
- 1 「リニア大交流圏」の形成
- 2 産業首都あいち
- 3 農林水産業の振興
- 4 次代を創る教育・人づくり
- 5 安心と支え合いの福祉・社会づくり
- 6 安心できる医療体制の構築
- 7 誰もが活躍できる社会づくり
- 8 あいちのグローバル展開
- 9 選ばれる魅力的な地域づくり
- 10 安全・安心なあいち
- 11 環境首都あいちの推進
- 12 東三河の振興
- 13 地方分権・行財政改革の推進